

最適化への技術的「こだわり」と「お客様第一」主義

Philosophy of Optimization through Technological "Commitment" and Placing "Customers First"



取締役

勝岡 律

Ritsu Katsuoka

最近、米国ではガソリン高騰の影響もあって、ハイブリッド車が売れに売れている。現在トヨタ自動車ではハイブリッドシステムを22,000台/月生産しているが、そのほとんどが米国輸出に回され、国内では容易に入手できない状態と聞く。

また、ヴィッツ（ヤリス）などの燃費と利便性を追求した小型車も国内外ともに好調な売れ行きを見せている。ここまでハイブリッドシステムが普及してきた背景には、弛みない電池の性能改良や大電力制御素子の歩留り向上、そして最適制御システムなど、ハイブリッド車の普及拡大に向けた、最適化への技術的な「こだわり」がある。また小型車優勢の背景にも、「軽量化」「安全性向上」「燃費向上」「利便性向上」に向けたさまざまな最適化への「こだわり」技術が寄与している。

このように、自動車の共通コンセプトである「環境」「安全」「利便性」を実現するため、そこに取入れられる様々な最適化「こだわり」技術に対し、ユーザはその価値を認めてくれる時代になってきた。言い換えれば、「環境」「安全」「利便性」に向けた、最適化への「こだわり」こそ、「お客様第一主義」につながる最も重要な取り組みといえる。

お客様が「環境」「安全」「利便性」に対する我々の技術的こだわりにより価値を見出してくれた時、はじめて「お客様第一主義」が達成できた、と考えるべきである。

もちろん、これら「環境」「安全」「利便性」の追求は、本来の車の基本コンセプト「走る」「曲がる」「止まる」がベースにあって、その上に築かれる+ の価値である。

従って、この+ の価値を認めてもらうためには、当然のことながら、「走る」「曲がる」「止まる」の基本性能は確実に保証されなければならない。基本性能を確実に保証できる実力があってはじめて意味を持つ「こだわり技術」=「お客様第一主義」である。

また、お客様が価値を認めてくれる「こだわり」の中には、当然「コスト」という要素が全てにつきまとう事を忘れてはならない。お客様は「環境」「安全」「利便性」に向けた技術の価値を、常に「コスト」というモノサシに当てて判断する。従って最適化への「こだわり」技術の中には、コストミニマムに向けた最適化設計、最適生産工程などへの取組みも含まれることになる。

当社の製品も「環境」「安全」「利便性」に関わるものが増えてきた。また、それらの製品を世に出すにあたり、製品そのもの持つ「環境」「安全」「利便性」への影響や、基本性能を改良する技術的取組みテーマも増えてきている。

これらの製品開発への取組み、あるいは製品のモノづくりへの取組みは、一言でいえば、全て「最高性能*最高品質*適正コスト」に向けた「最適化」への取組みと言っていいであろう。これが、最適化のための我々の技術的「こだわり」である。

「お客様第一主義」を貫くため、今後とも最適化への技術的「こだわり」をもち続けたたいものである。